

20/7/2 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第36回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

10:00

鈴木保存整備室長：始める

佐治所長：おはよう

梶原先生にあらたに参加していただく

本丸内堀発掘調査

北面レーダー探査

全体会議で議論した令和2年度事業予定 二の丸発掘調査

鈴木室長：出席者紹介

梶原：名古屋大学人文学研究科

城郭は専門ではない

埋蔵文化財専門 卒業生が名古屋市にお世話になっている

先生方の議論を聞いて勉強したい

鈴木室長：文化庁欠席

写真・ビデオ撮影はここまで

資料の確認

構成員 資料1のバックデータを配布した

議事に入る前に、毀損事故再発防止策について所長より

佐治所長：経緯説明

6月18日→6月22日全体でご了承

6月26日 文化庁訪問 第2課長に提出

「全国が注目する大きなプロジェクトを控えている

繰り返さないようにしてほしい」

文化財保護法に基づきやりたい

西の丸 現状変更許可申請を行った

認められたら修復の方針 毀損地点

文化庁「現天守指摘事項 準備が整ったところから

地元の有識者を意見を聞いて」
引き続きご意見いただきたい
千田：会議次第のどこに書いてあるのか
文化庁の指摘 重要なところ
佐治所長：書いていない
千田：会議次第に書いてほしい
報告ということで

佐治所長：失礼しました
反省する
千田：取り扱いの変更を求めている
宮武：4番目の報告に書けばよい
もう一度口頭に報告すれば議事録に残る

佐治所長：扱いを変える
10:11
鈴木室長：議事に移る
北垣：早速議事に移る 12時終了予定
本丸搦手馬出周辺石垣の修復について

名古屋城：報告する
石垣の修復勾配について
石材の再利用判定について
隅石についてきちんと見た
刻印がある石材

北垣：資料
まず、資料1、2 ご意見は？
資料1-3 搦手馬出北面勾配 左手は1を基準にして
高さ8間くらいが基準
一番下の1間分 6尺に対する勾配が基準
それよりも1間ずつ上がるごとに勾配が小さくなってくる
江戸時代の江戸城、大坂城
慶長、江戸にかけて のり勾配

ここで見るのは変化している 新たな技術が取り入れられている
ように見える

資料2 38が基準

1-3 最初はのり出し勾配 16番 特にな

天和の修復

資料1-5

宮武：勾配の件

前回の会議のあと？ 後半の資料についても 以前より緻密に

資料2, 3 勾配決定 経過を全体で考えてほしい

伝統的なルール

解体全体が終わった

右側、12, 14 ハラミの下

修復のところずれが出ている

安定するかどうか？

伝統性の維持と安定度

根石周りの慶長期 砕工法

全体の構造物がどうなのか

逆石の問題 不安定要素

直前に服部センター長から「逆石についてこう思う」論文

不安定要素を残して修復するのはどうなのか

百も承知

歴史的な意味 逆石にしたいわけではない

慶長期 加工技術の限界 使いにくい石

フォローしてあまりある伝統技術があった

石工の技術が集約されている

近代工法 不安定

安定性を目指す比率 伝統性を目指す比率

300年前の技術をなるべく保っていきたい

西形先生と議論 全体構造物で危ないかも

補強材を入れる？全部？何個かだけで済むのか？

100か0かの議論をされている

古いものを残すには、80対20とか

議論はこれから行う

断面部分のところだけ資料

逆石、勾配、根石、全体構造物

事前に送っていただいた資料を見て

前回タイムスケジュールを出してくれた　今回ない
搦手のときは必ず出して
どの段階で何をするか
聞きたいことはいろいろある

北垣：ほかには

西形：逆石　図面に例示されていない　どれが逆石か？

資料1-2　変形の状況　異常

逆石が影響しているのならどうなのか　あらためて検討を

図面の中にはないが、そこから下の状況を

いろんな調査　その辺を含めて資料を整理して再検討設けて

北垣：ほかには

資料1-3　あらためて検討して

たたきだい

次の問題に入っていく

石材について

宮武：墨書　具体的に何が書いてあるのか

読めないのか？

名古屋城：墨書はちょっと

宮武：解読ができる状況ではない

比較的な問題　石材に情報を書く場合、大天守台のように刻む

小倉城　漆

書くのは古い

慶長期のときの？　天和のとき再利用した？

別途考えないと　慶長期は

次は大切なこと　再判定を重ねると、最初より差し替えた

これはプロ　石工さんにみてもらったのか？

名古屋城：コロナの関係で見てもらっていない

データは渡した

宮武：隅角部　フローチャート

補修　使えるか使えないか　プロの石工の目で判定しないと

補修で使えるか　これは使うとまずい

餅は餅屋　現地で話すことはできない

最終的な判断は必要　石棟梁と話して決定して

その過程　資料1-3　再利用ができる→どうにもならない

石工の目線で「これなら大丈夫」

名古屋城：まだ

宮武：それを解消しないと

後ろでピンで固定、樹脂、石を抑え込んで

再利用できるなら残せる

墨書、刻印 プレミアムがついていればぜひ残して

千田：墨書がある

確認は解体時にしたということか

名古屋城：そう

千田：現状は

名古屋城：石の下にある

千田：現状として、文化財として墨書が残っているのか

名古屋城：確認していない

千田：外してどう保管していたか

石材そのものが散逸しないように

今更遅いがどう保存するか

データでは確認できるが、墨書が消えてしまった？

取り扱いは慎重に

北垣：工事が長すぎるわけ

全国でこんな長期にわたっているところはない

千田先生御心配のことが起こっているかも

確認できる場所があれば対策を

ご検討ください

宮武：ぜひ急務として、

最長不倒 解体してから 10 何年

解体着手の時に担当していた人はいるか？ 0 ですよ

着工していたときビジョン、コンセプトがあったはず

共有していたときから 10 何年

もう一回スタートラインに戻って

普通 4-5 年で終わらすべき石垣 3 倍近く

スタートとして搦手石垣 どういう方向で始まったのか

何が変化したのか

追加データ

毀損回り

新しくやらないといけないのはなに

確定しているところはなにか

整理しないと今後なにをやるのか

順番にどういうことになっているのか

それからコンサルティング ピンポイント的に

「3-4年で」厳しい

国庫補助金を使っている

もう1点 総合力としてあたって

担当の人1人が司令塔にならないと混乱する

全部を見ていく

司令塔1本にしないと錯綜する

北垣：大事なこれからの具体的な進め方ご意見いただいた
組織として対応していただきたい

西形：1-2資料

非常に変形の大きいところほど△

原因は何か？下の影響か？

材料をそろえて

北垣：地盤工学から大きな指摘

いちおうおく

新しい2のほうに入りたい

村木副センター長：資料2-2

解体の現状変更許可申請を出している

文化庁から指導

内堀、御深井丸側

昨年度内堀調査 水色R-V

昨年12月部会で報告

2-3 レーダー探査 つけた

天守台堀底 赤い部分 攪乱？遺構？

根石を中心とした石垣との接点

今年度追加調査

先日6月22日全体整備検討会議で2-2を出した
黄緑色W-Z T型トレンチを示した

全体整備検討会議では、トレンチの規模が適切か？
数が適切かという意見

最終的な意見 目的を明確にして

私どもで検討して今回資料出す

やはり扇状 横断するトレンチ

溝と根石関係 東西方向が必要だろう

検討の結果4か所T型トレンチ

レーダー探査 必ずしも帯状ではない

Gの南側

南北方向トレンチをしてから掘削していく

不必要な掘削を避けるように

掘削 今回の目的 遺構まで掘り下げるわけではなく、
遺構を発見したらやめる

W-Z 資料2-1 規模と目的

北垣：ありがとう 意見があれば

赤羽：6月22日全体整備検討会議 かなり調査について批判的・懐疑的意見

目的がどこにあるのか？説明不足

赤い部分 南北方向で調査 絶対に必要だと認識

気になるのは西側石垣に赤い部分が下の部分まで食い込んでいる

西側石垣の健全性を損なっている？

石垣間際のトレンチの設定は慎重に

試掘調査 学術調査ではなく保存のための調査 肝に銘じて

「発掘調査は破壊だ」豪語している人も

保存のために必要

できればトレンチの幅1メートル 作業がしづらい

ちょっと

石垣間際のところ以外は2メートルくらいにしては

実効性があると思う

名古屋市 毀損事故のとき 試掘調査の範囲が狭い

試掘調査は大胆にやってはどうか

規模を設定してやると実が上がる

村木副所長：現状変更としては大きく、
現場では最適にすることも検討

北垣：全体会議の発言部分
話をしっかり承って、発掘現場で活かしていく

梶原：前回の議論は承知していない
反応の深さはわかっているのか？

村木副所長：1. 2メートルくらい

梶原：1メートルでは少ない

千田：全体整備検討会議の議論

文化庁から指摘があった

明確に目的を伝えて、全体の先生に理解してもらって

再三のこと 親委員会、部会どうしの議論

ほぼなにも知らされていない

議論がかみ合わなくなっている

部会運営がまずい

赤羽先生から話があった レーダー探査 攪乱

内堀の中 大胆な攪乱がある 本来はない

本丸の対岸 健全性 問題を生じさせる理由ではないか

現在の天守閣復元工事の際、本来あってはならないことがあった？

解決しないと石垣保全には問題がある

レーダー探査 石垣 ノイズが出てくる

石垣とのかかわりの中で、攪乱

従来石垣部会 対岸側を気にしていた

部会でも議論した

探査の範囲 一番知りたかった 手前側で終わっている

わからない

関係性を知りたい 税金を使ってレーダー探査・試掘をしよう

資料2-3 石垣との攪乱

赤い反応

大天守台 小天守西側 表記していない

何が知りたいのか 意図できていない

石垣と攪乱

もうちょっと真剣に考えて資料を作って
部会で議論
全体整備検討会議で疑念が提示されても、名古屋市として説明できる
そのあたり 基本的なところ
トレンチの幅 攪乱の範囲、深さ どういう影響を与えているか
本質的な価値 内堀の形状
天守台石垣 大規模な修理 痕跡自体が歴史的資料
しっかり把握して欲しい
幅1メートル程度なら調査が難しいのではないか
あらためて追加調査で
全体整備検討会議でまたおしかりうけるのでは

北垣：そのようなこと

宮武：資料2 調査目的、方法 はじめて
搦手石垣と同じ
当初どういう順番ではじめたか 担当レベルで忘れていたのでは？
天守台石垣根石 きわめて不安定の可能性
赤いトレンチ進んでいる
北側 常時水が溜まっている不思議
ゴミ穴が出てきた 昭和30年代の残滓の可能性
御深井丸の下にもごみ山？
放置していいのか？ トレンチを入れた
予想以上に巨大な石
地山 根切りも削り飛ばしているところ
安定している部分 両方出てきた
不安定状況
結果最も危険因子 赤い部分をトレンチ
どういう
どうして全体整備検討会議が理解していなかったのか
そちらがショック
「遺構破壊」
事務局はどういう説明をしてきたのか
わざわざ一覧表にする必要性
あらためて資料を作る局面になったのか
全体の会議の運営を
調査の際 目的を わかったらどうするの？
ゴミがある 根まわりに輿石をまくのか、積みかえないといけないのか

判定ができないとだめ

幅1メートルでデータが取れるのか

じゃあもう少し広く

目的がわからなくなっていないですか？

もう一回説明が不足しているのなら、全体整備検討会議でもう一回説明を

佐治：貴重なご意見をいただいた

全体整備検討会議に諮る

目的をしっかり説明する

全体と部会をスムーズにいくように

北垣：これに関して

千田：トレンチ 南北報告でまずやる

東西方向 入れても入れなくても？

本来の目的 攪乱の実情

石垣との関係

それでよかったかどうか

根石との関係 なくなっている

保全のために補強対策

宮武：前回部会では議論出ていなかった

木造工事の案 堀を全部埋める

資料2-2 本丸西側の石垣を埋めて

根石周りの安定性 議論していない

トレンチ入れていない

前回下打ち合わせ 一番不安定なのは、凡例より下

大正大水害 崩落した石垣

濃尾地震？

南側の隅櫓 地震？ おき出して残っている

江戸時代石垣 湾曲している

土圧をかける設計 腰回り大丈夫か？

事務局でお考えの案 これだけでよいのか？

名古屋城：内堀を軽量盛り土で埋め戻し 仮設を立てる計画

検証が必要

小天守 南のラインまで 埋め戻しをしようという計画
N、Vくらいまで 詳細に

宮武：それより上？

名古屋城：そう

宮武：濃尾地震で崩壊したところの境目

Nのトレンチでみただけ

「追加のトレンチ入れる」

石垣部会何やっているのか？と親委員会にいわれそう

検討して

名古屋城：わかった

千田：内堀を埋めて、解体の仮設を作る

以前から具体的には聞いていないが

宮武 極力軽くするといっても、軽量盛り土 文化財への影響は？

天守台 旧木造天守焼けた 表面が焼けた 表面を触ると壊れる

シート1枚いれても、石が剥離、断裂

本質的な価値を持つ石垣が

対策を取ったうえで、可能なら工法がありうるかも

必要な範囲 埋蔵文化財としても根石調査

あわせて脆弱化している石垣面

こういう風で担保できる

「調査したから埋め戻しできる」にはならない

北垣：あらたな課題 こうして出てきているのでは

埋め戻し これまでの話と広がりが出てきそう

十分な説明をしていただく必要が

お話いただくことがあれば

佐治所長：文化庁指摘事項 計画的

R-V これで終わり？

新たにW-Zを考えている

いろいろ意見をいただいた これで十分か

事務局で精査して提案したい

北垣：この議題をこれ以上深めることは難しい

千田：普通の特別史跡の中 内堀を埋めてしまうという計画を進めるのなら、
今回の調査範囲

埋蔵文化財 完了するか？

議論でご理解いただいたと思うが、小天守横まで埋め戻すなら

「ここを調査しないといけない」となる

これから現状変更をだす？出した？

佐治所長：今日の部会を踏まえて

全体に諮って

千田：何が必要かを検討して

北垣：この議論はこれで終わりたい

いろんな課題 それぞれの立場である

全体会議のこともある

よくよくご説明 次のステップになろうかということになる

レーダー探査

11:24

村木副所長：資料3

空隙について

昨年度のうちに3月20日石垣部会で報告した

縦方向でレーダー探査 横方向で探査しては？

計画したのが3-2

赤く点線 足場をかけて追加的に行う

空隙があるかどうか

周波数 わかるものを

3-1 手法 背面調査 周波数

できるだけ正確に

宮武：オンブズマン、議会から聞いている

3月の部会 「レーダーが不足している、横の報告で」言っていない

文化庁の指摘を受けて

部会側 レーダーを求めた、と言われても困る

昭和の段階 モルタルを入れて、たまっているのではないか？

ファイバースコープ ハラミのぐわいの背面調査ではない

不足していると文化庁から言われた

この経過を共有しないとおかしくなる

レーダー調査を追加しろとは言っていない

村木副センター長：説明が不足していた
文化庁から指摘していた
レーダー探査が不足と私どもから言った
そうならと指摘を受けた
説明が不十分だった

北垣：そういうことが大事
全体会議 きっちりとした情報をぜひ親委員会に出して
同じような話になる
気を付けてほしい
西形先生は？

西形：この工事の過程 埋め戻し 発泡スチロールで抑える
特に北面の裏側が気になる
詳細調査
裏側の水面の位置 水の関係 合わせて検討する
近々行われると思う
石垣の裏を確定したいのだろう

宮武：西形先生にお願い
空洞がある場合、はらんだところ裏栗が詰まっている
そのままでも不安定
なにもしなければ持つかもたないか
発泡スチロール 外すときの反発
こういう反応 指導していただいたほうが二度手間、三度手間にならない

西形：難しいところ
抑え盛り土 発泡スチロール
石垣面 影響を受けるほどの力が施工中かからないのではないかと
楽観的な見方かもしれない
押さえ土 リバウンドはそれほど大きくないだろう
問題は焼き石 表面劣化に対する損傷は残されている
抑え盛り土による石垣への影響はそれほど大きくないだろう

宮武：なんとか残したい
大天守 オリジナル部分
レーダー探査 アンカーを入れるとか、補佐的

工事するしないに関わらず

データが欲しい

今の安定度を高めるのか

レーダー探査

西形：重ねて調査 主な目的

多分この状態で大丈夫だろう それを確認するための調査

11:36

北垣：ほかには？

4点目 二の丸地区発掘調査

名古屋城：資料4-1

二の丸南部の保存活用を目的

令和元年6月 愛知県新体育館基本計画が公表

資料4-2

資料4-3 二の丸御殿の礎石？

資料4-4 兵舎？

近現代の攪乱が多い

今年度調査 資料4-2

北垣：ご意見があれば

千田：既往調査の説明

令和2年度調査しますと断言

あなたは意味が分かって説明しているか？

部会で新議題 どういうつもりで説明しているのか

名古屋城：この議題に諮るため

もうしわけない

千田：名古屋市総合事務所 どういう調査計画たてているのか

どう現状変更許可 理解が

石垣、二の丸調査もそうだが、総合事務所内で共有できていないのでは？

今年から石垣埋蔵文化財

追加指定も含めて埋蔵文化財 部会の審議を経たうえで

追加の指定につなげたい

フローの中で、過去のことは石垣部会は知らない

こういう調査をしてきた だから今回調査したい

その結果を親委員会にあげて文化庁に提出したい
資料を作る、審議を行う
認識しないと、何のために議題に出すか
聞いているすべての人がわからない 認識してほしい

北垣：ありがとう

宮武：埋蔵文化財について、前回追加した
99条で出されている
申請者は総合事務所？教育委員会？

教育委員会：市がだす 教育委員会を經由して愛知県に

宮武：副申ではなく、教育委員会が主体？

教育委員会：小さいため、事後の報告
愛知県に伝えた

宮武：確認計画報告についても、同じか

教育委員会：そう

宮武：毀損事故を懸念

申請者が教育委員会

調査は総合事務所

だれが調査するのか？スルーしている？

文化財保護室から出しているでよいか

教育委員会：そう

宮武：今の問題 全員に

室長も怒られた 「わかりません」どういうことか

なんの法的根拠 同じパターンが起きる

県ともディスカッション 整理できた

県にお願い 政令指定都市 県としての対応

99条が上がってきている

県としてもチェックして

見ているか？

県：届け出 法令上間違っているかどうかではなく

そういったところ あらためて愛知県としてもチェック機能を果たしたい

届け出 地方公共団体による

教育委員会名でも可能

調査主体 調査研究センター名で出すのがふさわしいか 県として議論した
宮武：福岡市などに聞いた
かなり珍しいパターン
土地
史跡の候補地に過ぎない
整備の対象 周知の文化財
体育館 開発行為もある
土地の持ち主 名古屋市
このパターンは何に基づくのか 例がない
慎重にしないと
保存活用 補助金でトレンチ
開発行為と背中合わせ
体育館 工事が発生する
記録保存もあり得る
最悪なのは、記録保存 残ったものだけ史跡指定
トレンチ
2 か年も調査している
埋蔵 開発に対するもの
史跡に追加したいからやっている調査
体育館 残存状況 工事のための事前？
史跡
市の単独でやってください
交通整理をして
トレンチの開け方 それぞれ違う
史跡にするのなら完掘はしない
開発前提 保存前提かでかわってくる
こういう調査 ディスカッションして
事故につながる

北垣：非常に大切

県のほうから話 名古屋市としても調整
次からこういうことで 出して
資料4-2
発掘調査の範囲について 赤の部分11-15
11, 12は二の丸庭園に入っているのか？
体育館のことはわかる
どういように考えていくべきか

二の丸庭園と、下の解体予定の体育館と
両方にまたがっている これではよいのか？
交通整理が必要ではないか？

千田：1, 6, 11, 12は特別史跡か？

名古屋城：未告示地区

北垣：未整理のところがある

今日の会議 整理できるところ 未整理のところわけて
次回からきっちりやっていく

千田：今年度11-15

簡単な調査目的

部会での審議を踏まえて

特別史跡 目途を示す こういうことを意図して 示さないと
審議のしようがない

調査区 極めて小さな図面

今回、部会で今年度調査 これではいけない

佐治：報告ときいていた

今回初めて スキームなど報告

詳細な図面を部会に出して、全体に諮りたい

千田：「最初は報告で出そうとしていた」

どういうことか

今年から石垣・埋蔵物委員会になった

検討できていなかったこと 毀損事件が起きてきた

しっかり審議する仕組みを作った

「まずは報告で」ではなく、しっかり審議するんだ
組織として

佐治：議事の扱いは注意したい

北垣：石垣・埋蔵文化財部会になった

これはどこでされているのか

総合事務所で位置づけされた

一つ一つがきわめて重要な内容を含む

分ける部分は分けて

次回出すところ

今回は報告 審議がなりつつある
審議になるように資料を出して

千田：県体育館が移動する
北側名城公園に
あそこも庭があったところ
指定されているか知らないが、十分な考古学調査が必要
12:04

北垣：4の報告
時間が過ぎている

鈴木室長：もう一つの報告事項
毀損事故
二の丸庭園の発掘調査
庭園部会で議論 ここでも報告

名古屋城：庭園の全体像を確認したい
遺構の状況を確認したい

北垣：意見は？

宮武：庭園部会のマター
境界が確定したら、なんらかのことになるのか

名古屋城：今後

宮武：垣根？ 何らかの建造物・構造物
復元？

名古屋城：復元も考えている

宮武：整備を考えているということですね

梶原：たくさん発掘される
主体は名古屋城
優先順位を決めて適切なマンパワー投入を

西形：天守の石垣裏側 影響
内堀への影響 数値解析の結果があったかと思う

石垣部会に出たかわからない
あらたなレーダー探査が終わってからでもよい
数値 影響の度合いなど 少し詳しい説明を
資料をそろえて

北垣：毀損について

佐治：毀損繰り返し

6月18日→6月22日

6月26日 文化庁に提出

「全国が注目するプロジェクトを控えている

今回のような過ちを繰り返さないように」

万全を期して行う

西の丸 現状変更許可変更

修復を含め、全体整備検討会議で検討

文化庁 現天守指摘事項 一つ一つ検討

毀損時点の修復とともにやりたい

宮武：重要なことを言っている

天守台のこと 地元有識者 「検討を進めたい」「検討をすすめてよろしい」

なんといったのか 主語と

佐治：話がでたわけではない

文化庁から指摘事項が出た

平行して進めてよろしいと見解

宮武：毀損問題、搦手、解決していない問題

天守台 既存天守解体に向けた議論

整理がついたものから議論してほしい？

佐治：そういう認識

発掘調査、レーダー探査 議題

宮武：あいまいにすると議論の方向が変わる

親委員会 部会で報告した

確認すべき

北垣：わかりやすく

佐治：「並行してすすめていただきたい」がすべて

赤羽：市長が文化庁に行ってコメントを出されている

これでは、並行して進めていって結構という認識

文化庁が認識しているのか、名古屋城が認識しているのか

認識とはどういう意味なのか？

佐治：進めていただいて結構と双方が認識している

赤羽：きっちりしたやりとり

文化庁第二課長とお話しされた記録

とっているかどうか国でも話題になっている

名古屋市がきっちりやっている

文化庁とのやり取り 文書として残して私たちに提示していただきたい

北垣：この件はこれで終わり

千田：ネットで拝見 プロポーザル方式

竹中がコメント

今日来ている？来ている

室長がホームページ

天守について免振ダンバーを入れる 素晴らしい技術

石垣についても、竹中工務店 事実関係を認識されていない

文化庁から指摘

室長自ら述べている

石垣部会から様々な懸念 調査が必要だと指摘してきた

竹中、当時の名古屋市 汲むことなく文化庁に対して解体现状変更許可申請した

文化庁から「継続審議」評価されなかった

そういう経緯である

総合事務所 一緒にプロポーザル方式

実施責任者 室長が事実と違うのを出すのは望ましくない

名古屋市の側としても

「名古屋市は知りませんでした」でよいのか

竹中の意識、認識 部会に対して軽視

今後注意してほしい

竹中とよく話し合ってほしい

北垣：議事、報告事項

不足があるかもしれないが、時間がない

今日は終わり

鈴木室長：ありがとう

議事を村木からまとめ

村木副センター長：まとめる

搦手馬出 逆石書いていない 修正して出す

時系列的整理

担当を固定して

本丸内堀発掘

今後内堀工事について十分なのか 検討して

今回示した調査区以外 検討する

北面レーダー探査

数値のデータ提示する 了解いただいた

二の丸地区発掘

制度的な面

審議する体制を理解するように

次回以降詳細をお示しして

調査については次回

結論を上記まとめたよいか

鈴木室長：長時間にわたりありがとう

12:25